

## 平成25年度 第2回三木市金物振興審議会議事録

1 日時 平成25年9月12日(木) 午後1時30分から3時30分

2 場所 三木市役所2階職員厚生室

3 出席者

(委員) 宮協会長、守澤副会長、友定副会長、堀田委員、岡島委員、  
金鹿委員、神澤委員 《欠席：小山委員・嶋谷委員》

(参与) 河合三木商工会議所専務理事、永尾産業環境部長

(事務局) 藤原商工課長、津村主査、荒田主任

4 公開非公開の別 公開

5 傍聴者 なし

6 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

(4) 閉会

7 会議に付した事案

(1) 三木金物産業振興の具体策について

(2) その他

8 議事の概要

事務局 それでは、定刻となりましたので、ただいまから第2回の三木市金物振興審議会を開催させていただきます。

この会議は三木市審議会の会議の公開に関する条例の規定に基づき、公開することとなりますので傍聴者がいらっしゃいましたら入室されますのでよろしくお願いたします。

それでは、会長から挨拶をお願いします。

会長 みなさん、こんにちは。本日もご苦労さまです。東京オリンピックも決定し、東京はこの7年間何十兆円、おそらく百何十兆円という経済効果があるということ、経済状況もかなりよくなるのではないかと思います。その効果が私達にどの程者がこういう風に動いた、ロビー活動をどのようにしたとありますが、組織の縦割りと横割りの連携が良くできて一団となれたのが要因だと思います。金物業界におきましても、工業組合・卸組合・行政・商工会議所等々が自分のエリアだけの仕事をするのではなく、お互いが連携して、その意識がひとつになって一致団結したと

きに大きな仕事出来るのではないかと思います。各々の意識を統一することは難しいとは思いますが、この審議会で具体的な意見が出て、それに向かってまとまって行ければ良いと思います。今日は皆さんから頂いた具体的な案を答申としてまとめたので、色々な意見を出して欲しいと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。委員様9名の内7名のご出席を頂いておりますので、本日の審議会は成立しましたことをご報告いたします。それでは、議事に入らせていただきますので、会長、進行方よろしくお願いいたします。

会 長 それでは次第のとおり進めていきたいと思います。事務局より議事について説明をお願いします。

事務局 本日、具体的な案を出していただきまして事務局で取りまとめて会長に承認いただいた上で正式な答申としてご提出をいただきたいと思っています。今日の資料につきましては、事務局より説明させていただきます。

事務局 別添資料の「三木金物産業振興の課題」及び「三木金物産業振興の具体策について」を順次、説明する。

会 長 具体策は皆様方から出た意見を基に作成されています。これを基に、より具体的な方策をまとめていければと思います。4分野にまとめられていますので、項目ごとに意見を出していただきたいと思います。

まず、新製品開発支援関連で「どんなものでも作ります」の体制づくりですが、金物業界だけじゃなく他業種へのPRをする時にホームページ等で問い合わせがあった時にそれを実際にどこでどうやって作れるのか、技術的に可能なのか、と問い合わせる窓口がない。防災、介護、医療、シルバー、キッズ用品など色々な分野があると思うが、その中でも刃物だけではなく色々な物が出来ないだろうか困っている企業が三木に問合せをしてきた場合の体制をつくる事が出来れば、新規の製品・販路開拓につながるのではと思う。

資料で三条市の地場産業振興センターが樹脂の3Dプリンター（以下3DP）を導入し、企業の試作品の開発に活用している。新製品を開発するのに企業が3DPを買えばいいが、なかなか購入は難しい状況である。樹脂のプリンターと高価であるが出来れば金型として使用できる3DP、それから、製品をデータにして作成できる技術職人、こういったものがあれば、メーカーさんは新製品の開発に今のようにコストがかからなくなると思うので、新製品の開発がし易くなるのではないかと意見が上がっている。

まず実際に使用するメーカーさんの意見を聞きたいと思います。委員さんはどのようにお考えですか。

会 長 もし、問い合わせがどんどんあって、ホームページを英文でおこして海外からの問い合わせが来るとか、そういう風になれば、色んな分野へ三木の金物の技術や三木で作った金物が出る可能性があります。メーカーさんの立場でこのような体制づくりが可能なのか。

先ほど言いました、3DPが今はないが、金属工業センターみたいな所があって、技術者が居て、鍛冶屋さんが新製品を作ろうと思った場合、金型から作ったら費用がかかるため、試作品を3DPで作って、それが良ければ金型も出来る3DPで作れば、安価で短期で新製品を作ることが出来るのか等、本当にメーカーとして助かるのか、利用出来るのか、を聞きたい。その2点について聞かせて欲しい。

委 員 3DPどうかは別にして、この3次元の図面を作るのが、我々には技術が無いため出来ない。そういったものがあれば試作品を作る場合も前へ進んでいけるのではないかと思います。結局、CADできっちり図面をおこせないと物を作れないみたいなどころがある。僕会社では対応が出来ない状況ではある。

会 長 そういったものがあれば、新製品は作りやすくなるのか。

委 員 そうですね。

委 員 ものづくりの体制は、情報を集めて、こんな話があるとなった時に、どうやって振分けるといのが難しいと思う。

3Dの図面をおこせる会社は三木でもいくらかもあるが、この機械が仮に入ったとしても、誰がその機械を日頃使い、管理していくのかという問題がある。

会 長 そのような技術者が必要である。試作品を図面におこして、実際その機械を使って製作できる人が、1人ついておかないと出来ない。

委 員 図面をおこす場合には、その技術者に対応してもらわないといけない。

会 長 金属工業センターみたいな所があり、機械があって、図面を書ける人が居て、メーカーさんや鍛冶屋さんが依頼する。そうすれば樹脂での試作品が出来る。その製品を新製品にしようと思ったら、今度は金型まで落として、実際それを使って製作出来る様になる。そうなれば新製品の作成までの工期が一気に短縮出来て、コストも安価になるのではないかと思う。

委員 工期が短縮できるのかは疑問がある。要するに図面を書いて金型を作ったというのと同じ事だと思う。焼入れに出すと1ヶ月ぐらいかかる。同じくらいかかると思う。

会長 金型屋に出すよりは、工期は大分短くなると思う。

委員 我々の手に入らないものだから、明日の三木の勉強のために必要だと思う。ただ、今すぐ導入したとして、どれだけ利用するかは非常に疑問である。

会長 それをメーカーさんに聞きたい。

委員 データをCADで作る工程が一番面倒である。

委員 当社は3DPではないが、木や樹脂のプリンターを持っている。それだけでも全然スピードが違う。ただ、ゼロから設計図を書くのはどうしても自社でしないと仕方ない。外注に出す場合はある程度、形を作って逆に持っていかないといけない。

それから3DのCADでデータを作ってもらう。そのデータを作成するまでの工程スピードは変わらない。そのデータが出来た後のスピードは格段に上がる。それをもし外注に出してしまうと、修正に1週間とか10日かかり、その結果、まだ修正が必要ならば、また修正で同じだけ時間がかかる。費用も1回5万や10万かかってしまう。しかし、3DPがあれば、その日の内に出来るので、スピードがまったく違う。それで新製品の形を見るのはものすごく早くなると思う。また機械を置いてもらったら、外注に出さなくてすむので開発費用も安価になる。この記事の40万のプリンターは、形のみを作成するものだと思うが、もう少しグレードの高い物なら色も使えるようになる。そうすれば、こういう色で作ればどんな感じになるのかというのも分かるようになる。実際にリアルに目の前で見せられるのと、イラストで見せられるのとは全然違うため、3DPは自社に欲しいと思っている。

会長 実際にそんな人材がいる企業とタッグを組まないといけないのかもしれない。

委員 本当にCADを使える人間が1人は絶対必要である。工程で一番大変なところはそこで、時間もかかる部分だ。

委員 当社では、試作品は、樹脂のプリンターで20時間かけて完成する。単色なので、色をスプレーで吹き付けて完成させる。これを3、4個つくとすると4日程かかり、色付けをして、これでOKだとなったら、本格的な機械加工にまわす。その時

でもCADデータの調整が必要となってくる。しかし、今回の場合だと、もっと時間短縮ができるということですね。

委員 デザインが出来るまで、設計図が書けるまでにかかる時間と、実際に金型製造を発注した後にかかる時間は、以前の場合と変わりませんが、その間の時間はすごく短縮できる。

会長 失礼な言い方になってしまいますが、委員さんの所がしたいとなったら、この機械があれば時間はかかったとしても自由に出来るということですね。

委員 もし10万かかっていたのが、1万出したら使えるという状況になれば、新製品も次々に作ろうという気になるのではないかと思う。

委員 自社で樹脂プリンターを購入してからは、格段に開発のスピードが上がった。3DPになったら、さらに良い物がもっと短時間で出来るようになるのかなと思っている。

委員 3DPなら海外では物を置いて、形を読み取るような物もある。

会長 コピーすれば、図面を書かなくても完成する製品がある。

委員 3Dコピー機がある。

会長 コピーして、すぐにプリンターで製品を完成させる。

委員 それが出来たらすごく楽になる。コピーでデータ化すれば、それを少し修正するだけでよい。最初からデータを作成するのは時間がかかる。物からコピーして、データにするのはもの凄く良いことだと思う。

会長 コピーとプリンターがあれば良いのでは、と思う。一からしようとすれば図面を書かないといけませんが、少し修正かける程度であればコピーから修正をかけた方が早い。

委員 MRIで人体を切って写していくが、あれと同じ列があって、そこを通したら全部データが出てくるという感じ。

会長 コピーとプリンターがあって金型まで出来れば一番良いのではないか。機材の費

用は分からない所がある。しかし、メーカーさんが仮に機械を入れても使わないのであれば、意味が無い。

委員 須磨の支援センターにデータを持っていけば、すぐに作ってくれると聞いた。

委員 費用は高かった。中小企業では頻繁に持っていけない額であった。しかもデータだけ。向こうから見れば安いのかも知れないが。最初は急いでいたこともありお願いしたが、結局は自社でCAMを買い自社で対応することにした。

委員 情報収集をする場合にネットだけにするのか、問屋さんによる金物ではなく新分野の情報を集めてもらうシステム作り、各企業さんに寄せられた発注図面を出来ませんと返してしまう今の状況、このような状態をどうやって変えていったらいいのか。

会長 この加工は、この事業所で出来る。でも違うタイプの加工は別の事業所なら出来るということが、三木には結構存在している。こういう技術・機械はここにある。けれども、ここに無いものが他ではあるというのを全く知らない分野の人が何かを作って欲しいと依頼されても、何処の会社がどんな物を作るのか全く分からない状況である。

委員 東大阪市では、発注に対して製品作りを共同で受け持つ企業が株式会社を作っている。その複数の企業の中からリーダーを決めて、そこが窓口になり発注を受けている。こういう体制であれば対応は可能であるが、今の三木で発注があっても、誰が持ってきて何処に振るのかは非常に難しい。市内に株式会社を何個か作って、そこで入札にかけるなどするのであれば対応可能だとは思う。

会長 仮に窓口があっても、それを何処どこに振分けるともめる。何社かで会社を立ち上げてもらったら、その中での対応であるし、下請けでも対応は可能になると思う。そういう体制ができれば、新規の注文もあるのではないかと思う。問屋から見れば、こういった体制作りが出来れば、新しい事業に繋がると思う。

委員 問屋さんが窓口になって行くと、わりとすんなりと行くと思う。本来、メーカー同士のつながりは無い。問屋さんからだと、おまえところはこれを作って、そっちはこれを作ってくれという業務の依頼がし易い。

会長 同じ技術を持ったところがあった場合、これをここに頼むかあそこに頼むか。

委員 そういう場合、昔から問屋さんの依頼があれば、段取りして納めさせてもらっていた。

会長 個人で聞いた分には、例えば委員さんここで出来ないか、でいいのだけれど、もっと業界的に色んな分野に進出しようと思ったら、何かそういう仕組みがあればと思っている。三木の金物製造の技術を使って、新分野へ広げていこうと思っている。

委員 レベルの高い、特注な商品ということですか。何処でも作ることが出来ない商品。

会長 高価な商品でなくても、それが多数出るものであれば良いと思う。

委員 将来性のある商品ですね。そういった発注などがあった場合、現状、はっきりした窓口が工業組合か卸組合か分からない。専門的・技術的なことが、すぐに回答出来る様な窓口があればいいと思う。なんでもあそこに行けば分かる様なところがあれば、将来発展していくと思う。OBやベテランでリタイヤされている方に居てもらってもいいだろうし、ハキハキと答えてくれる方に居てもらえればと思う。

委員 東大阪は、メーカーブランド名を持って、それぞれ製品を作っていない。この部品を作ることが出来る、このカラーメッキをすることが出来るという、パーツパーツの受け皿を持っている。

会長 確かに窓口があったらかなりの売り上げアップに繋がると思う。3DPは、メーカーさん・鍛冶屋さんが本当に欲しいという事であれば、行政も新製品の開発に予算も付けてバックアップしてもらえれば良いと思う。開発の費用が安くなれば、どんどん新しい製品を作って売っていくと、そうすれば三木の金物も売り上げが伸びていくと思う。

委員 逆の発想で新製品をコピーされてしまうのではないかという危機感を持っている。売れるものであれば、データがあれば中国でもどこでも単価の安い物を作ってコピーして持って来れば良いという話になる。

委員 現実に中国は車でも全部スキャンして、3DPで精巧にパーツを作って、金型をつくるから全く同じものがすぐ出来てしまう。

委員 大学生、芸術系の子が自分たちで発想したものを粘土で作れば、直ぐ製品が完成する。それを500個ずつ売っていけばビジネスになる。誰でも物づくりが出来る時代が、すぐそこまで来ているのではないかと思う。

事務局 機械だけではなく、CADのオペレーターとか3Dのオペレーターが必要になってくるのではないのでしょうか。

会長 それは、どこかの企業に依頼するしかない。

委員 現実問題として3DPの操作は簡単なものである。1日レクチャーすれば直ぐに使えるようになる。要はデータを入れ樹脂をセットするだけ。それまでの工程が大変。3DP自体は経費も安くなり時間も短縮されるからありがたい物である。アイデアがあって、こういったものを作ろうとした時、その人の頭の中にしかアイデアはない。図面の作成は各企業が対応しないと、どんなCADが上手い人でもイメージが無ければ作れない。

事務局 自社でCADオペレーターを育てないといけない。

委員 もしくは、親しくしている企業に作ってもらおうとか、それこそ大学の研究室なんか頼むと割と安くしてもらえる。と言っても芸工大の場合、年間で百万円以上の契約料が必要である。

会長 平図面を書いて頼んだら、ある程度は仕上げてもらえないか。

委員 それはしてもらえる。

委員 例えば大手企業のプラスチック成型の技術系にいてリタイヤした人であれば、我々の業界ではかなり戦力になると思う。企業かどこかに書いてもらうよりも、そういった方に書いてもらう仕組みを考える方が持っていきやすいのではないかと思う。

委員 そこを個人会社・デザイン屋にしてもらって、そこに委託すれば最終的に市役所の3DPから出てくるシステムにしてしまえば良いのではないか。

委員 4年前に道の駅付近にデザインセンターを設立しようとして、県と市などをお願いをし、人員も不定期で1名置くなどの話を詰めていたが、新商品とは一体何なのか、誰が保証をしてくれるのか、図面を書く前の基本設計について誰が引くのかとか、1年間は補助が出るけど2年以降は誰が経費を負担するのか、その人件費は誰が払うのか、そんな問題ばかりがどんどん出てきて前へ進まなかった。

要はここで共通の課題がものづくり・新商品開発である。その時にネックがCADである。あるいは支援センターである、というのであれば、そこを共有化するの

は良いがどうやって管理していくのか、というところをきちんと議論していかないと架空の議論となってしまう。だから、先程委員さんがおっしゃった様に民間に委託をし、民間に助成をし、彼らが優遇措置をもらっているのです、三木の業界に関しては優遇措置として5割引で仕事を受けましょうと、こういう仕組みを引けば、どんどんCADが書ける様になる。3DPは、そこから先の話であると思う。やはりそれ以前が問題となるので、その所をどうするかという仕組みが上手く、この審議会で提案出来れば良い。それでその人も生活が出来るという事になれば、成功すると思う。ただ、簡単に「これ新商品です」と持って行っても、絶対に新商品になりえないから、そこらへんは個々の企業がマル秘で願います。ただ、そういう企業はノウハウを持っている。新商品開発は個々がする仕事である。共同するネットワークは人やプリンターだというのがあれば、それを共同設置するのはOKでしょうけど、3DP等は半年すれば陳腐化します。今の3次元ソフトだって日進月歩だから、使い物にならなくなってくる。1000万であったものが300万、もうすぐ30万になる。このような時代であることも考えないといけない。

もうひとつ言わせてもらえば、この審議会としては金物業界・メーカー・卸それぞれの全体の共通課題をこういう方向で解決しましょうという考え方がひとつと、やっぱり個々の企業が今から強くなるためには何が必要なのか、メーカー、卸それぞれ何がネックとなっているか、というところをこの審議会で答申をして、そこで何らかの具体策を出すということで議論を集約していかないと議論がまとまらないと思います。

例えば、神戸は医療産業都市だと医療がキーワードとなって、全てがそっちに動いている。そうすると、三木の金物は医療だというのがあれば、そこに向けて今のCADも3DPも人も物も全てそっちに向けて動いていく。その中で共同化する部分、個々の企業が努力する部分がここだと仕分けして進んでいく。中々、その目先が医療なのか、ITなのか、介護なのか、福祉なのか分からない中で難しいとは思いますが、そういう共通のコンセプトがここで集約できればやり易いと思います。

会 長 共通のコンセプトを示すのは難しい。

委 員 この審議会がやろうとするのであれば、そういう部分の議論もちょっと必要かなと思う。だから、「3DPを導入するため試行錯誤を1年間繰返す」というための助成をしてほしいというのであれば、そういった助成の仕方を答申するというのは可能ではあると思う。

会 長 三木金物の振興のために、新製品開発・PR・継承の枠の中で具体案が出てきている訳ですが、2番目の議題に行きます。この案は委員さん提案ですね。

委員 NHW賞でお金が出ます。新製品開発でお金が出ます。であるにも関わらずNHW賞の申請が少なくなっている。委員さんが言うには申請方法が難しすぎて、中々作成が出来ないため、様式の簡素化をして欲しい。それと市に頼むのが本当にいいか分かりませんが県や国の補助金も含めて新製品を作ろうと思えば、意外とこんな補助金もあるよという説明会、市に提出する申請書は出来るだけ簡素化、県や国に提出する申請書の書き方をサポートしてもらうような勉強会を行ったら新製品開発に取組む企業が増えるのではないかなと思います。

会長 勉強会は、連合会で行えば良いと思う。市役所の方に説明に来ていただくのと、申請書の簡素化をして欲しい。

事務局 簡素化についてですが、市としては、県や国の補助金を申請される企業さんには、きっちりと書類の書き方も勉強していただかないといけないという思いもあります。

委員 記載要項はあったか、マニュアルはどうか。同じような質問項目が続いているので、そこで答えを書く時にどこで違いを持たせるか赤字でマニュアルを作成しておかないといけない。ここはこの赤字の答えをおさえる、よく似た質問だけここはこれが聞きたいという意図の伝わるマニュアルを作らないと、提出する人にとっては記入が難しい。

事務局 簡素化など申請書について対応します。

会長 簡素化と勉強会については、費用もかからないので実施して欲しい。

委員 特にNHW賞に関しては、助成金が出るだけでなく、もっと大事なのは小売店にそのパンフレットを直送して貰ってPRが出来ること、これが非常に大きい。それも公のものでアピールしてくれる。賞金を幾らもらうかよりも、売りに繋がる方が大事であるということも含めてPRすると、もっともって申請する人が増えるかもしれない。

会長 三木金物新製品及び新素材開発支援補助金の要件緩和で大学・試験研究機関との連携なしでも補助対象とするとありますが。

委員 少し以前から、大学と絡む、産官学連携が凄く流行っていた。今でも流行っているが、それをすると補助金の対象となる。企業単独ですとお金を貰えない。要は

それなりの物に仕上げてこないと、いくら新製品を出しますと言っても、それだけでは、お金を出しませんよという、ライン分けのためにこういった条件が必要。だから、これを削ると審査が難しくなる。ほんとにこれが良い物になるのかどうかという事が全く見えなくなる。

事務局 それなりのレベルにあれば良いが、ただの改良版みたいな、新製品と言えないような物が沢山出てくる恐れがあります。

委員 委員さんの所の缺はこういう制度を活用されていますね。

会長 NHW賞で賞金をもらい、新素材開発で補助金をもらったという事ですね。

委員 だから逆にそれだけ出るのだから、もっともっと開発し、申請してよということになる。もらえる金額は減りましたが応募者はそんなに多くない。もっともっと応募をしてくれないと実績に繋がらない。

会長 大学との連携が若干のネックではないかと言う事か。

委員 お金を取られる取られないは別として、その段階を踏まないといけないことがネックになってくる。でも大学と連携することは面白いのですけどね。それから、この試験研究機関というのは金属工業センターの事なのか。

事務局 今は公的な機関と記載しています。どこでもいいよとすれば規制緩和にはなります。

委員 この辺で言えば神戸市の「NIRO」ぐらいしかないが、ここは大学と連携していれば無料で連携してくれる。その辺は大学との連携も非常に良いのですが、こんなこともしないといけないということだけではなく、ここと提携すればよっぽど開発費が浮きますよという様な説明をしてもらったら良いのではないかと思う。やはり第3者でそのスペシャリストが入ってくれたら、新製品がよりグレードアップする。

会長 その大学と提携するに当たって、不慣れな企業はどうすれば良いのか、入り口の部分が分からないと思う。

委員 それを市役所なり商工会議所が「窓口になりますよ」「ちゃんと紹介します」と言ってもらえれば済むと思うのですよ。

事務局 会議所さんは以前から経営相談されていますし、市役所もお配りしています資料の中小企業診断窓口をこの間から設けていますので、そこに中小企業診断士さんに来てもらいまして、そういう専門機関の橋渡しも行っています。そこに相談に来ていただくのも一つの手かなと思います。

委員 大学の間口は大分広がっているが、中小企業でも本当の意味での中小企業しか相手が出来ない、我々零細企業とは組めない。けど三木の金物業界にとって、その素材は非常に役立つというものがあるとする。それを会議所なり三木市と一緒に行けば、若干でもその費用は安くなるのか。

委員 基本、初期費用・相談費用は無料である。2回目以降、こういう場合はどれだけ必要で、繋いだ場合の費用はこれだけ必要であるという説明はしてくれる。そういう仕組みが出来ている。最初は銀行の融資の話までをする等、基準が定められている。

委員 兵庫県の地場産業と兵庫県の大学がコラボすると、大学の先生が今までの経験から判断して、国からこんな補助金を引っ張ってこられるとか、よく手馴れているから、この事業だったら、1000万持ってこられるとか何百万持って来られるとかという話も出てくる。それぐらいの話になった物を商品化するのが一番良い。大学が首をかしげるような事業は、メリットがない。

委員 兵庫県内の機関との連携が一番良いという事だね。

委員 そうですね。その次は県。県を出ると国になってしまう。国になるとかなり審査も厳しいし、東京にまで行かないといけないので、ちょっとハードかなと思う。県単位だとわりと身近で話が出る。

会長 入り口で止まってしまっている。委員さんの所みたいにある程度慣れてきて利用価値が分かれば、こういった制度は有利だと分かるんだけど、しない人は、はなから利用しない。しようとするれば出来る人でもしない。その辺の説明を市役所・商工会議所の方に協力をいただいて、メーカーだけでなく、問屋でも新製品を開発している企業もありますので業界で勉強説明会を出来たらと思います。

事務局 会議所とも連携して、勉強説明会の企画を考えます。

事務局 3DPですが、共同で機械を購入されるとして、CADの技術をお持ちでない会

社さんが利用するのは難しいのではないですか。

委員 それは利用出来ません。

委員 企業によってソフトが違う、ということもある。

会長 データを持って行ってプリンターだけを使わせてもらう。データの作成までは、使う企業が独自に対応しないといけない。

委員 委員が言われたような仕組みをつくらないといけません。技術を持っておられる企業とそうでない企業がいらっしやいますので。

事務局 素人考えで言いますと、誰かオペレーターを委託しておいて来てほしいといえ  
ばすぐ派遣してもらえると  
いう態勢が可能になり、それが役に立つということであれば考えます。

委員 両方あってもよいと思う。委員さんの所が手造りで造ったものを図面化する依頼  
をリタイヤされた技術者の方に依頼する。緑が丘には多くの技術者がいらっしやる。

事務局 企業OB活用という新たなメニューもひとつ作れます。

委員 一人だとそこに情報が集中してしまう。企業秘密もあるので、何人かの方に登録  
していただければ、気の合う方に依頼することも出来る。最初はひとりでもい  
いし。

委員 プリンターはあってもCADを書く人がうちに居る必要はない。データの遣り取  
りが出来ればよい。パソコンがあればその場で出来る。そのデータをうちの会社に  
メールで送ってもらえれば出来るし、絶対に秘密ということであれば自分でデータ  
を持って来てもらえればよい。

事務局 そうすれば市内で仕事が済みますね。

委員 CADまでは持ってないかもしれないが、皆さんパソコンは持っておられると思  
う。

委員 だから行政としては、企業にそういうソフトを操作できる人を養成する仕組みを  
作って、養成学校を毎年開催しますという風にすればよいのではないか。

委員 その人達がCADを書くだけではなく、後進に教えてもらうような事もしたい。

委員 これを受けた人はその義務があるという風にすればよい。

委員 定年された方なので、先は長く働いてもらえないから、とにかく後進を育ててもらえるシステムになればよい。

委員 具体的に誰かという訳ではないが、緑が丘にはハイレベルな方が多くいる。川重に勤められていた方もいる。

事務局 公募すれば、こういった方は応募してくださるでしょうか。

委員 意識的には三木市に住んで30年、40年という方なので、三木市が故郷になっていると言える。だけど、今まで三木市とあまり関わりが無かった。逆に何かきっかけがあれば、話を持っていけば喜んでいただけるかもしれない。三木の金物に役に立つのであればという事で。

会長 これは振興策として、実現できそうな雰囲気がある。

次の議題のPRの方に行きます。熊本の八代の鍛冶屋（盛高鍛冶刃物）、世界のシェフが選ぶ5本の指に入る包丁に認められている。事業を受けた時どうしていいかわからなかったけれど、青紙スーパーを上手に鍛造する技術を2年間かかって作ったが、八代では売って回ってくれる人が居らずHPで出した。今でも発注の6、7割が海外かららしいけれど、すごく評判が良い。やはり日本で一杯一杯だと海外に出すということで、潰れかけた鍛冶屋さんが復活した。だから、三木の商品もPR次第では海外で受け入れられるのではないかと思う。

三木の金物を日本また海外を含めてPRする具体的な意見を聞きたいと思います。

委員 1企業でPRするのは限度があるし、世界とまでは言わないが、せめて日本中どこであっても、「三木金物をみんなが知っています」という目標、ビジョンを持ってPRをして欲しい。

会長 金物大学もそうですけど、PRの仕方ひとつで一目瞭然で結果が違ってくる。

委員 道の駅の1階の展示場ですが、ずっと同じままになっている。あそこはいい場所だから、明るくするなり、リニューアルしてイメージを変えて欲しい。そこで商品

を売るという話もあったが、2人も上と下で人員を配置出来ない。小さいですがいいスペースなので勿体ない。何か考えて欲しい。

委員 三木金物ブランドのシールを貼っている製品があまり見受けられない。使う方に三木金物を認識していただきたいし、三木金物ブランドをせっかく取ったので、地道な活動ですがその辺をもっと活用していった方が良いと思います。

委員 現状はどうなっているのか。

委員 当社は対象商品全てにシール対応していますし、パンフレットにも記載しています。

会長 ところが、その三木金物ブランド自体の認知度が低い。これは一体なんなんだと。三木金物ブランドは、三木が推薦できる良い商品ですという事をNHW賞のパンフレットにも記載をして欲しい。ことあるごとの広報誌にもPRとして掲載が必要ではないか。なかなか目につかないから。

事務局 我々が作成する分には記載出来ますが、現状でしたら、送付用の封筒にマークを記載しています。

会長 金物店に送るものだけではなく一般の方に送る封筒に三木金物ブランドは三木が保証するマークですと記載する等のPRを図ってみてはどうか。  
NHW賞のパンフレットには記載をして欲しい。マークを見る機会があれば少しずつでも認知度が上がるのではないかと思う。

事務局 あとは組合さんの封筒と業界さん個々の封筒に記載してはどうでしょうか。

委員 認定を受けている企業を対象に調査も必要ではないかと思う。どこまでシールを貼っているのか等を確認すると同時に依頼もかけていけないといけない。

会長 お客さんから、これは三木の金物ですが、三木金物ブランドのシールが貼っていないけど大丈夫ですか、と言われるぐらいになれば、みんな貼り漏れがないぐらい貼るようになる。現状は貼っても貼らなくても関係ないような状態なので貼ってない所もある。だから、ことあるごとにPRをしていかないといけない。

委員 認定企業自体が尻切れトンボみたいになってしまっている。もっと増やしていかないといけないが、新たに認定企業にさせてくれという企業もない。このままい

けばなくなってしまう。苦勞してスタートさせたものであるのです、なんとかして認定企業を増やして欲しい。今、80社くらいか。

委員 そんな数でしょう。あれから1回、追加募集していたけれど。

会長 いろいろPRの案を出して積極的に動かないと立ち消えになってしまう。

委員 これについても一度、説明会が必要なのではないか。

委員 この2、3年の新製品は登録していないから、シールを貼れない状態である。

会長 三木金物ブランドについては商工協同組合連合会で対応します。市役所関係で何かあれば市役所に、商工会議所関係であれば商工会議所にお問い合わせがありますが、よろしくお願いします。

次は技術継承関連です。今度新潟で鍛冶学会が開催されますが、学会のそもそもの出だしが、製造出来なくなる商品が今後増えてくるという事から始まっている。三木で言えば特に鍛造系統の商品が製造出来なくなる。鎌で言えば手打ちの鍛造の鎌がなくなり、全てプレス。鍛造して延ばす職人がいなくなる。今まで叩いて延ばした金槌を福島さんが製造していたが、福島さんがされなくなったら、そういうのが出来なくなる。製品そのものが無くなってしまう。今でも少しずつ売れているが、みんなが寄ってたかってという程売れていないから一軒でやっておられる訳ですが。それに鋸の溶接する所が無くなると、割れた鋸があってもそのままになってしまう。技術者が居なくなったら、その商品自体が例えば日本から無くなってしまう。そういった商品が今から少しずつ出てくるという事で、今のところ三木で無いものは三条で補うなど、何とか融通し合って対応しているが、中にはもう製造する人が居なくなる様な状況がどんどん増えてくる。そういった技術が一旦なくなってしまうと、その技術を復活させるのはちょっと難しいので、そういった技術を継承していく必要がある。これは金物の販売、売り上げアップどころかという話ではないかもしれないが、やはり産業、技術を受け継いでいく職人の育成ですね。そんな職人を一人前にするまでは銭にならない。ところが何年も技術を教えて一人前にしようとすると当然お金がかかる、給料を払わないといけない。その辺の特殊な技術の育成に賃金などの補助金を出して育成をし易くしたらどうかという意見だと思う。

今、鍛冶学会で色んな産地が連携して考えましようとか連携して補えるところはお互い補いましようと思強会を持つのですが、そういった部分でご意見を伺いたい。

委員 木工関係もそうですね。

会 長 鮑の台を打つ人は三木にはいない。普通の鮑台は出来るけど、特殊なものはみんな新潟で作成している。新潟で台屋さんがまだ何軒かはある。しかし、そんなに若くはなく、後継者もない。三木の鮑屋さんはみんな新潟に鮑台を頼んでいる。新潟の台屋さんがいなくなれば、鮑の台をする人が居なくなる。三木で鮑の刃を作っても製品が出来ないという事になる。何か手立てを打たないといけない。

委 員 三木で職人を育てられないから、三条に送り込まないといけない。

委 員 本来、鮑を使う人が鮑台を作るとするのが基本。特に豆鮑。そういうことを聞いて、当社も数年間研究しているが三木で出来ないことはない。要するに本来鮑を使える人が鮑台を作る技術を習得していかないといけない。もちろんその鮑台を作る事業所が三木の中にあって、それを作ってあげれば一番いいのだけれども、鮑を使える人が今居なくなっている。鮑を使えるというのは、研ぎが出来て鮑台が作れるという事。補助道具として、こんな道具が必要だよというのがないという話。当社と徳永さんとのコラボの中で出てきている課題がこれ。それを作れる人が三木で作ってほしいという事。それと、そういう人を三木で養成しないとけない。ものづくりをする人の事をクラフトマンというのだけれど、自分たちの道具を自分たちで作るような人達をどれだけ三木に集めてきて、職人の町に出来るかという事。底辺から入ってこないと結局残らない。だから鍛冶屋の基みたいなのをもう一回しないとしょうがないと思う。

神戸から来た人と話す機会があって、鮑を使って何かしていますかと聞くと「削ろう会」。削ろう会だけが成功しているが、悪口ではないけれど僕はあんな薄く長く削ってもそれだけだとどうかという話になってしまうのだけれど、マスコミが手をかけたから削ろう会はあれだけのものになった。けれど、そこから踏み込んだものがない。削ってその木をどうするのか、そこがないと。まだあれだけ人が集まる中で次の事を考えてどうするかを三木から発信していかないといけない。

会 長 鮑台だけではなく鍛造品の金槌であるとか色々ありますが、そういった物の技術の後継ですよね。もう放っておけばいいと言ったら、放っておけばいいという話ですが。

委 員 結局食べていけないから無くなっていつている。

会 長 そういうところもあるし、食べられてもやりたがらないところもある。収入と仕事のバランスもあるかもしれない。

委 員 でも潜在的にやりたい人はいると思う。芸大上がりの人とか結構やりたい人はい

ると思う。ハマるひとはハマる。ただ経験が無い人に、そこまでのチャンスが無い。

会 長 そういう事業所は当然大人数ではしていないから、若い子を一人入れてその子が食べていける給料を出すとなればかなりきつい。自分ひとりでトンテンカンテンして、何とか作ってある程度やっていけているけれど、若い子をひとり雇って、その子の分の給料も出すとなったら、その子の作る分は最初、補助的なことから始めていかないといけないこともあるから厳しい。だからこのような後継者の補助金があると思う。やはり技術はとぎれてしまえば終わり。10年途切れました。それを復活させましようと言ってもかなり難しい。

委 員 好きだと言ってもそれだけでは難しい。センスも必要なところがある。量を集めないの一つが出てこないところがある。

会 長 極端な話、例えば病気になって亡くなられたら一卷の終わりという種類の商品も幾つもある。これから5年先、10年先に無くなるかもしれないという商品を含めたらかなりある。技術を習得する1年やそこらでいかない。長いスパンが必要だということを考えると早く手を打たないといけない。商品自体が製造出来なくなる。

委 員 鍛造の技術を習得・持っている人がバーンと有名人になって、そこに弟子入り等でやろうとする人を来させないといけない。手段として良いか悪いかわからないけど。例えば木工家具を作るならスペシャルな人を世界で有名にしてしまう。その人が使ったものが三木の金物であり、日本伝統・木と鉄の文化という理念を打ち上げることによって、作りたいという人の裾野が広がる。ものづくりをしている人が減っているかといえばそうではない。今美大系の人や、デザイン・造形とか実際に染めたり叩いたりする人間が来る。そういう意味では潜在的にもものづくりをしたい人間はいるはず。その人達を三木にどう取り込んでいくかという事が大事であると思う。

委 員 外から入ってきて育つ人が居ない。現実、肥後の守や日本剃刀の所にも弟子入りしたいという人がいた。砲台の職人の方なんかいなくなれば、その砲台を使っている砲屋さんが困る。そういうシステムを作ってあげないと。やりたいからと言っても、後継者がいなくなればそれまでで終わってしまう。

会 長 本来は砲だったら、砲台も自分の所で製造出来るようにしないといけないという話だけど、やはりそこが出来ない。人を雇わないといけない。下請けで新潟へ出す。

委 員 鍛冶屋さんは自己追求で技術を磨いてきた。教えてもらったものではないから教

えるのが難しい。

委員 そういう人に限って良いものを作る。

委員 丁稚奉公や教えてくださいと頭を下げて土下座をして、そこまでしてでも望むということは今の時代には無い。

会長 みんな後を継いでくれる人を望んでいる訳ではない。望んでない人の方が逆に多いのかもしれない。

委員 金物屋さんが息子に後を継がせたくない、という意見が多いのと一緒なのかもしれない。

事務局 分業になっていなくて、他に影響がなかったらいいのですが、鉋は台がなくなると刃を作る人が困ってしまいます。これがある限りは何か手立てをしないとイケないでしょう。

委員 刃を作る人が台も作ったらいいのだけれど。

会長 本来はそうである。将来先が分かっているのだったら、そこまで面倒を見てしないとイケない。台だったら鉋屋さんのメーカーが集まって対応すれば良いのだが。

委員 小刀屋さんは自社でしている。柄も鞘に入れたりもしている。

会長 やはり一から完成品まで自社で出来るような体制作りは必要である。鋸にしたら、目立て屋さんが居なかったら、自分の所で目立てをきっちりできるとか。一方通行ではなく相互通行でないといけないから技術の継承は難しい。そういう点で、実際息子だったら仕方ないなという感じになるのだろうけど。これは難しい問題のため、継続審議とします。

委員 後継者の賃金負担は市で対応して頂いている。

会長 制度の変更、ネックはどのようなものか。

事務局 ネックとなるのは、伝統工芸士または同程度の技術を持った人という条件です。

会長 後継者の育成制度についても今度する説明会の内容に入れて欲しい。知らない人

も多くいる。

それでは、時間もきました。三木の産業振興の方向性を今日の会議だけで定めるのはなかなか難しいのですが、いくつかの提案ができると思う。

事務局 まとめさせていただきますと、新製品を開発促進するためには、三木で「どんなものでも作ります」の体制づくり、要は三木市内の技術を結集して市内完結で要望に応える体制とそれを支える設備投資の面で特に3DPとか投資補助プラスCADなどの操作オペレーターの人員確保と人材育成のための支援。これが一番大きかったと思います。後は補助制度などの使い方を浸透させるためのセミナーなり説明会をするべきだという事。道の駅みきの「駅の広場」の何かいいPRの場としての活用方法を考えるべきであること。それから、これは連合会で対応していただくのですが、三木金物ブランドの積極的な活用を進めるための、何か支援がないかを盛り込ませてもらおう。それからこれはどうしましょうかね。技術継承ですが、これは将来的な課題として継続審議とします。

この辺でまとめさせていただいて、会長に承認頂く形で答申をいただきたいと思います。この審議会は、これだけで終りではなく、継続の審議もございますので定期的開催をさせていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。最後に副会長、ご挨拶をお願いいたします。

副会長 皆さん長時間お疲れ様でした。活発な意見が出まして、ある程度方向性が固まったものもありますので、ぜひともこれを活用して実行して頂いて業界の発展に繋がればと思います。また、今後も活発な意見を出して頂いて三木の金物業界をより良いものとなるようにしていきたいと思いますので、これからもご協力をお願いいたします。